第82回日本内科学会講演会（1985年）

内科セミナー 薬剤血中濃度と治療効果*（抄録）

司会 名古屋市立大学医学部第二内科 山本 正彦

司会 名古屋大学医学部付属病院薬剤部 北澤 式文

司会者のことば

SEMINAR: THERAPEUTIC DRUG LEVEL MONITORING

Moderator: Masahiko YAMAMOTO, MD

The Second Department of Internal Medicine, Nagoya City

University, Medical School

Moderator: Shikifumi KITAZAWA Ph. D.

Department of Hospital Pharmacy, Nagoya University, School of Medicine

治療には種々の手段が使われているが、薬物治療はその中核をなしている。薬物が実際に有効になる過程には、数多くの因子の関与が考えられ、有効性の検討にはこれらを考慮すべきことが強調されている。

これらの因子のうち、最も重要なものは薬物の血中濃度であり、このことなしには薬物効果を論ずることはできない。

実際の日常臨床でも、薬効が認められない、または薬効が認められ難い症例に遭遇したとき、その薬物の血中濃度測定が不可欠なものとなりつつあるし、また、最近、高い関心を集めている薬物の副作用の問題にしても、その薬物の血中濃度測定なしに論ずることは出来ない。

一方、薬物血中濃度測定とその解析は近年の医学、薬学領域での進歩、微量計測器の出現、さら

にはコンピューターによるシミュレーション技術の進歩に支えられて長足の進歩をとげ、今日では臨床の場において実際に活用されるまでに至っている。これによつて従来とかく経験によつて決められてきた薬物の選択、用法、用量などがより科学的に根拠に従つておこなわれるようになってきており、それは薬物療法の有効性と安全性を高めるのに直接結び付くものと考えられる。

本セミナーでは、第1部として北沢の総論に続いて、実用化の進んでいる「テオヒリン」について寺道博士に、「強心配糖体・抗不整脈薬」について外畑・横田両博士に、「抗てんかん薬」について清野博士に現状と問題点を報告いただくとともに、第2部として会場内でパネルによる解説をおこなうとともに、最近開発された血中微量薬物測定装置数台を設置し測定と得られた結果よりコンピューターを用いてシミュレーションする手順を実演し、参加者に直接操作して理解を深めていただくこととした。

*本セミナーは1985年4月4日午後6時10分より約2時間、名古屋市千種区吹上町2-6-3 名古屋市中小企業振興会館にて行なわれた。